

+1(プラスワン)



「カラスの勝手？」

牧師 横山順一

少し前になるが、ウチ（教会）近辺のゴミ出し場所のカラス除けのネットが新調された。

カラスってよく見ているので、穴が開いてくたびれていた古いネットの時は、ほんの空きを狙って生ごみが荒らされていた。

冬季はエサも少ないから、新しくなったネットで、完全に防御できているのが、カラスにはちよつとかわいそうにもなる。

時に、童謡の歌番組を見る。私くらいの年齢層には、案外にこの手合いが受ける。

かく言う私など、「ゆりかごのうた」とか聞いた途端に、幼き日の思い出が込み上げて涙腺がゆるくなるすつかりおじちゃんである。

私より少し若い世代の方々だったら、「ぞうさん」とか「一年生になったら」とか、まど・みちおさん歌謡の童謡が人気だと思う。

が、全体としては「七つの子」や「夕焼け小焼け」はきつと人気ランキングの上位ではないかと

想像する。

どちらもカラスが登場する。前者は「まあいい目をしたいい子だよ」と歌うし、後者は「カラスと一緒に帰りましょう」と終わる。

どこにも、カラスに対する悪印象はない。むしろ温かな眼差ししかない。

いつの頃から、カラスはゴミ荒らしのやっかい者になってしまったのだろう。

ついでに、夕暮れ時の「赤とんぼ」も、もはや全く見かけられない光景だ。「じゅうごでねえやは嫁にゆき」などと歌っても、今の子どもたちには意味不明に違いない。まさに「おさとの便りも絶えてた」のだろう。

童謡を聞いて涙するのではない。歌詞が伝わらなくて「動揺」するのである。

「黒」は古来大人の装い。正装の定番。なのにカラスとか、猫だと「不気味」とまで言われたりする。あんまりだ。

そのくせ「ヤタガラス」だけは、日本サッカークラブの勝利の守り神としてエンブレムにもなっている。

「七つの子」では「かわい、か

わいとカラスは鳴くの」と歌われるのに、今は「うるさい！」と怒鳴られる。つくづく人間様こそ、身勝手そのものだ。

ヤタガラスは足が三本あるという、伝説上のカラスだが、聖書にはカラスが結構登場している。

あのノアが洪水後、ハトより先に放してみたのがカラスだった。

イエスは、「思い悩むな」と題された話の中で、カラスに言及している。

「鳥のことを考えてみなさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、納屋も倉も持たない。」（ルカによる福音書十二章二十四節）

カラスって、何だか昔から働かない者の代表なのかい？って、いよいよ気の毒だ。レビ記や申命記には、食べてはならない汚れた鳥の一つともされている。

でもイエスはこう続けた。「だが神は鳥を養つてくださる」と。働かないとか、汚れてるとか、みんな人間の側からの一方的な見方に過ぎない。

それより、神がカラスを養われると語ったイエスを思う。私たちも同様だ。